

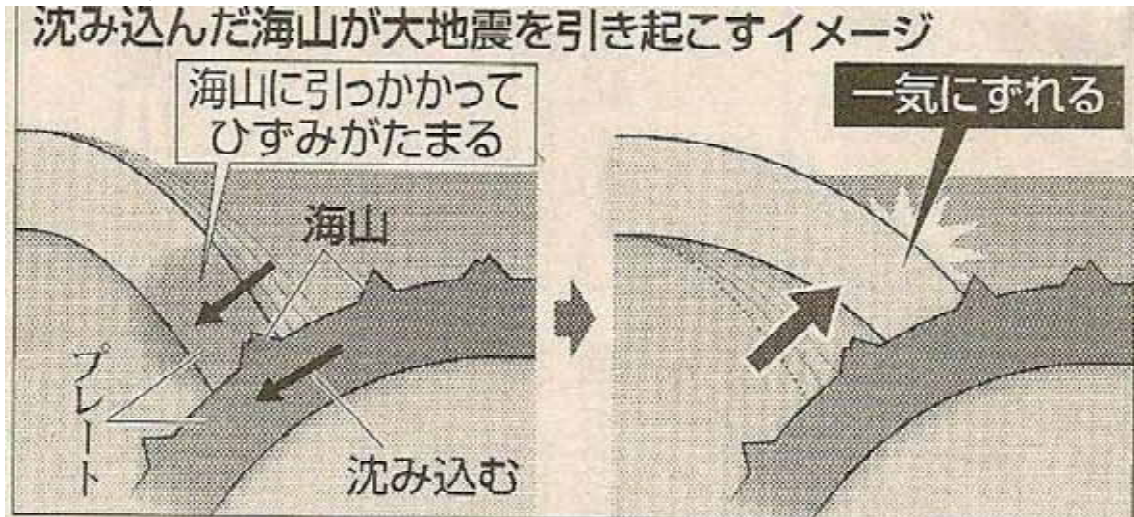
## 追記

M9.0 だった東日本大震災の余りにも巨大であった原因は何であったのか、特別な原因があるのではないかと、この疑問から、調べたところ、こんな可能性が出てきた、という研究成果を防災科学技術研究所が発表、体育の日、10月10日の朝刊の記事からの引用です。

海側の太平洋プレートが陸側である北米プレートに沈み込む日本海溝の境界では、プレート同士がしっかりとくっついている場所がある、しかしプレート全体では僅かに動いているので、その個所は歪みにより巨大なエネルギーを蓄えてしまう。そのくっきの限界を超えると、その弾性エネルギーが一挙に弾き出し巨大な海底地震になる。

研究によると、震源地を分析したところ、プレートの境界は地震前の半径70km程度の範囲でしっかりとくっついていた。この部分は太平洋プレートに乗った海山が沈み込み地点で北米プレート側に食込み、固定されままた長期間に渡り弾性エネルギーを蓄えてしまった、と推測しており、そう言われれば納得出来る研究です。

日本海溝での沈み込みでは古い海山が引っかかるなど考慮に入れてなかった、まさに想定外でした。



海底には海山があり、中央海嶺、ハワイ沖の海底からアリュシャン列島付近まで続く天皇海山（海山に歴代天皇の名をつけた、命名はアメリカの学者）、九州沖からパラオ諸島に続く九州 - パラオ海嶺、海底は陸地よりも大きな山が多数存在しているのですから、このような現象があったとしても不思議ではありません。